

指定管理者評価表(外部評価シート)

1. 基本事項

1. 基本事項		評価対象期間		令和3年4月1日 ～ 令和7年3月31日			
施 設 の 概 要		指 定 管 理 の 状 況					
名 称	老人福祉センター福寿苑	指 定	名 称	社会福祉法人 可児市社会福祉協議会			
所 在 地	可児市大森347番地2	管理者	所在地	可児市今渡682番地1			
設 置 目 的	可児市は昭和50年代から急激な人口増加の時代を迎え、当時は高齢化率が約7%でしたが、来るべき高齢社会を見越すとともに、高齢者に対する健康増進、教養の向上、生きがい支援などを目的として、老人福祉法の規定による老人福祉センターを設置しました。	指定管理期間		令和2年4月1日 ～ 令和8年3月31日（2期目）			
		選 定 種 別		公募 ・ 非公募		利用料金制	採用（一部・完全） ・ 不採用
		業 務 内 容		生活相談、健康相談、機能回復訓練、教養講座、施設の設備・備品貸出、施設の設備・備品維持管理、福寿苑の設置目的を達成するために必要な業務のうち市長の権限に属するものを除く業務			
供用開始年月	昭和58年4月						
施設所管部署	福祉部 高齢福祉課						

2. 施設の運営状況

① 利用状況

項 目	R3年度(1年目)		R4年度(2年目)		R5年度(3年目)		R6年度(4年目)	
開館日数	217	日	241	日	240	日	243	日
施設利用者数	11,875	件	15,265	件	17,907	件	18,934	件
1日平均利用者数	54.7	人	63.3	人	74.6	人	77.9	人

② 自主事業実施状況

項 目	R3年度(1年目)		R4年度(2年目)		R5年度(3年目)		R6年度(4年目)	
開催回数	66	回	104	回	139	回	144	回
参加人数	1,031	人	1,514	人	2,064	人	2,165	人

③ 主な自主事業の内容

実施年度	事業の名称等	参加人数
令和6年度	生花教室	99 人
令和6年度	健康体操教室	444 人
令和6年度	ヨガ教室	460 人
令和6年度	民踊教室	255 人
令和6年度	太極拳教室	361 人
令和6年度	漢方健康教室	159 人
令和6年度	脳トレ教室	122 人

3. 収支状況

① 収 入

単位:円

項 目	R3年度(1年目)	R4年度(2年目)	R5年度(3年目)	R6年度(4年目)	
	実績	実績	実績	計画	実績
指定管理料	19,000,000	19,000,000	19,000,000	23,000,000	19,000,000
その他	56,395	340,186	51,751	40,000	5,952
収入計 A	19,056,395	19,340,186	19,051,751	23,040,000	19,005,952

② 支 出

単位:円

項 目	R3年度(1年目)	R4年度(2年目)	R5年度(3年目)	R6年度(4年目)	
	実績	実績	実績	計画	実績
人 件 費	10,632,798	10,660,693	10,584,070	13,970,000	10,130,645
事 務 費	1,368,166	1,538,682	1,308,383	1,618,000	1,595,515
事 業 費	264,500	308,500	562,000	700,000	622,000
管 理 費	4,638,634	6,831,259	6,377,388	6,750,000	6,657,192
その他	1,200	1,000	0	2,000	600
支出計 B	16,905,298	19,340,134	18,831,841	23,040,000	19,005,952
収支 A-B	2,151,097	52	219,910	0	0

4. 評価結果

区 分	評 価 項 目	評 価 内 容	一 次 評 価 (施設所管課)		二 次 評 価 (選定評価委員会)	
			評 価 理 由 等	評 価	評 価 理 由 等	評 価
業 務 の 履 行	事業計画書及び協定書に掲げる業務の実施状況	事業計画書や協定書に掲げる業務が確実に実行されているか	適正に実施されている	B	・教室に加え、企業や大学などと共同開催にて、高齢者の関心や生活に沿った事業を実施しており利用者が増加している。 ・働きやすい職場環境を整えるための取り組みがなされている。 ・経費をおさえるために職員が様々な工夫をされている。	B
	人員配置及び職員研修の状況	必要な人員が確保され、職員研修も実施されているか	適切に実施されている	B		
	文書・帳簿の管理保存状況	管理業務に関する文書・帳簿は適切に整理保管されているか	事務所内書棚に適正に保管されている	B		
	施設設備・備品の保守管理の実施状況	管理施設の設備・備品の保守管理状況は適切か	法律に基づく点検等適切に実施されている エアコンの故障等の不具合に対して、迅速に対応できている	B		
	緊急時の対応方法	緊急時の対応マニュアルや事後の対応への備えができていないか	マニュアルが整備されており、施設管理や感染症対応等が適切に対応できる体制が整えられている。	B		
	利用者の推移	利用者が特別な事情がないにもかかわらず前年度に比べ減少していないか	R5利用者数: 17,907人(前年度比+2,642人/+17%) R6利用者数: 18,934人(前年度比+1,027人/+5.7%)	A		
サ ー ビ ス の 水 準	サービス向上及び経営改善に関する独自の取り組み	サービス向上等に向けた独自の取り組みは実施されているか	継続しているヨガ教室や健康体操は人気が高く、令和4年度からは新たにフレイル対策や漢方の講座を開催する等サービス向上に取り組んでいる	B	・アンケートの結果から満足度が高く、高齢者の活動の場となっていることが確認できる。 ・職員がサービス向上を目指そうとしている姿勢が見受けられる。 ・企業、学校とのコラボ事業で施設と利用者と地元の3つのつながりを広げている。利用者のほかの困りごとの相談につながるなど良い効果を生んでいる。 ・社会参加(ボランティア)の促進を図っている。	B
	利用者満足度調査における施設満足度	利用者の施設満足度は高いか	利用者の満足度は9割を超えており、調査により様々な意見を聞き改善に取り組んでいる	A		
	PR・情報提供の実施状況	様々な方法により、積極的なPRや情報提供が行われているか	チラシや苑内掲示等を積極的に実施している	B		
	苦情処理の状況	苦情に関する帳簿が作成され、内容は職員に周知され、適切な対応がなされているか	事故や苦情も無く問題なく運営できている。職員間で情報共有を図り、未然に防げる体制が整備されてる。	B		
収 支 状 況	指定管理施設の経理事務の状況	指定管理施設に関する経理事務は適正に行われているか	適正に処理されている	B	・福寿苑単独では赤字であるが、社会福祉協議会全体として黒字となっており、法人内の調整により問題なく運営されている。 ・財務状況は適正である。	B
	指定管理者の財務状況	指定管理者の財務状況は適正か	指定管理者施設の財務状況に問題はなく、適正である	B		
総 合 評 価			多種多様な教室・講座を開催し、高齢者の興味・関心を高め利用者増に繋がっている。アンケート結果からも利用者からの満足度も高い。施設の老朽化等に伴う不具合が発生すること多いが、適切に対応、報告できており、問題が大きくなる前に未然に対処できていることも評価できる。	B	「所見」欄に記載	B

所 見	・利用者の増加のため様々なテーマで多様な団体とのコラボレーションにて講座を実施している点はとても評価できる。 ・施設の老朽化について早めの点検対応をして安全に心がけているということなので、しっかり取り組んでいかれることを期待する。 ・普段から職員が施設内の清掃、剪定業務を行い、R5はイノシスを3頭捕獲することに尽力し、施設の維持のためにしっかり対応されている。 ・管理者の特色をいかした事業、企画をこれからも広げていただきたい。 ・社会参加は人にとって大変重要であり、今後も社会参加を進めていただきたい。 ・アンケートから雰囲気、職員の対応がとても良いが大半を占め接骨院の通院回数が減った等、高評価です。設置目的の健康増進、生きがい支援にも適っている。
-----	--

5. 参考(評価基準)

① 区分別評価基準

◆業務の履行

評価	内 容
A	適切に実施されており、より効果的に業務が実施されている
B	適切に実施されており、特に改善等を要する事項はない
C	おおむね適切に実施されているが、その一部に改善を必要とする事項が見受けられる
D	要求事項が実施されていないか、実施されていても適切ではないため大幅な改善が必要である

◆サービスの水準

評価	内 容
A	サービス水準の向上が認められ、独自の工夫も多く見受けられる
B	サービス水準はおおむね維持されている
C	サービス水準の一部に低下が見られ、サービス向上の努力が必要である
D	サービス水準が低下していると認められるため、サービス向上に向けた大幅な改善が必要である

◆収支状況

評価	内 容
A	収支は計画に比べ向上が見られる。財務状況も良好である
B	収支はおおむね計画どおりと認められる。財務状況は良好である
C	収支のいずれか、又は両方が計画を達成していない。財務状況は良好である
D	収支のいずれも計画を達成していない。財務状況も良好とはいえない

② 総合評価基準(評価指標の①②のいずれかの基準を採用し、評価を決定する)

評価	内 容
A	① 全ての評価がB以上で、Aの割合が60%以上である
	② 適切に実施されており、評価できる点が多く、改善が必要と思われる重要事項もない
B	① 全ての評価がB以上で、Aの割合が60%未満である
	② おおむね適切に実施されており、評価できる点もあるが、軽微な事項を含め改善が必要な事項がある
C	① A・Bに該当せず、Dの割合が30%以下である
	② 適切に実施されている部分もあるが、改善が必要と思われる重要な事項もある
D	① 上記のいずれの評価にも該当しない
	② 改善が必要と思われる重要な事項が多く、早急な改善が必要である